

石川ダム ハザードマップ

- 石川ダムハザードマップは、**大地震でダムが決壊した場合を想定**して浸水想定区域を作成したものです。
- 地震の状況等によっては決壊の条件も異なりますので、浸水想定区域が実際と異なる場合もあります。
- 地震が発生したときには土砂崩れ・津波に対しても警戒が必要です。石川ダムの決壊による浸水想定区域と併せて土砂災害警戒区域と津波による浸水想定区域を確認し、いざという時の避難に備えましょう。

いざという時は

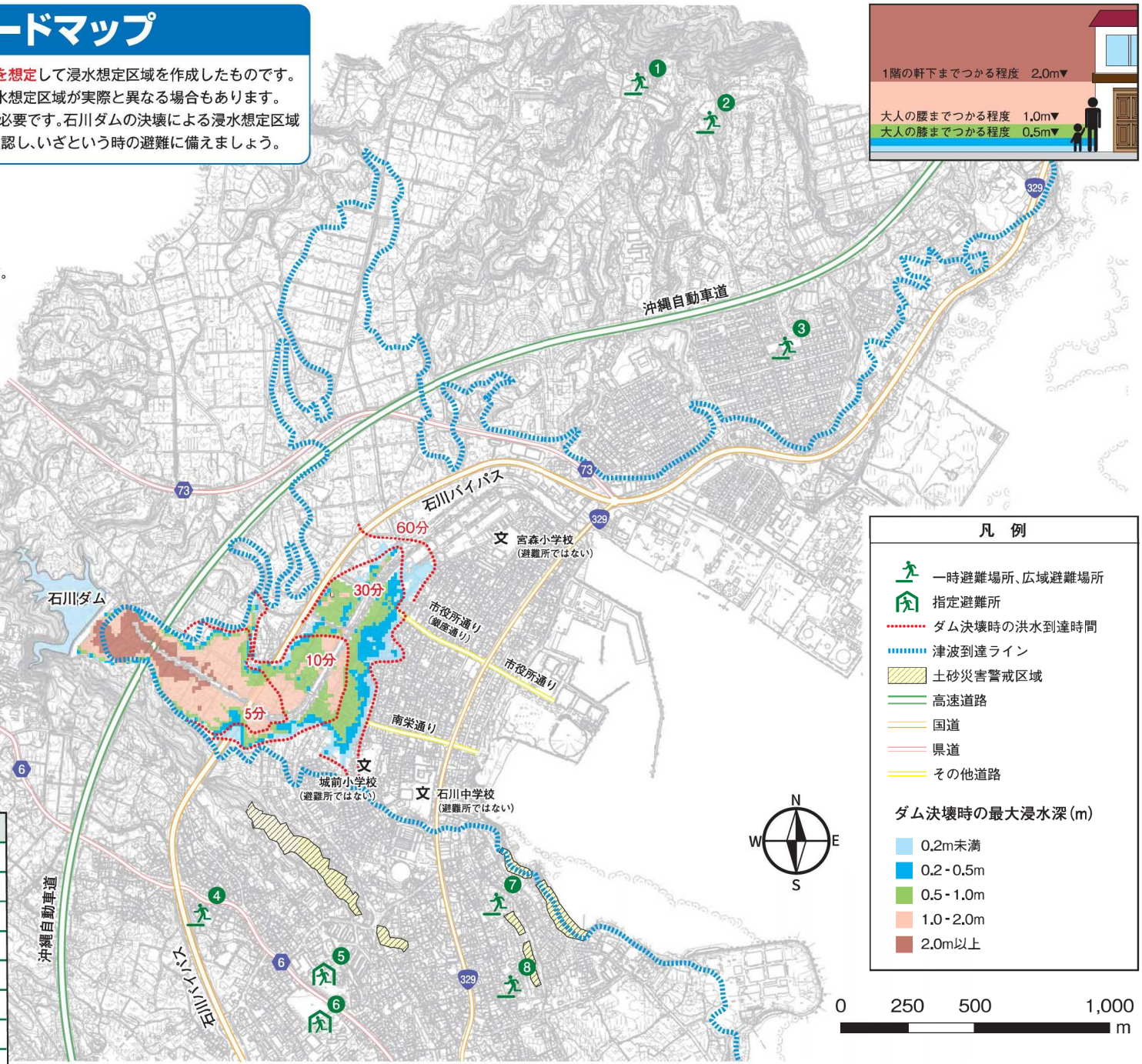
- 地震が発生した時は決して**ダムには近づかない**で下さい。
- 洪水は**10分程度で浸水想定区域全体に広がる**危険性があります。緊急地震速報や強い地震があった場合、揺れがおさまった後は、**速やかに浸水範囲から逃げて**ください。
- ダムが決壊した場合の**最大浸水予測は2mを超えます**ので、浸水範囲内にいる人は速やかに**高台へ避難**してください。
- 避難は徒歩で行ってください。**車での避難はやめ**ましょう。
- 地震により津波が発生する**可能性があります**。安全が確認できるまで、**高台などに待機**してください。
- 水が引くまでは高台などで待機し、**水が引いた後で避難所へ移動**しましょう。

指定緊急避難場所(一時避難場所)
避難者が一時的に集合して様子を見る場所又は集団を形成する場所をいう。

広域避難場所
大規模災害から安全が確保される大規模な公園等の広場をいう。

指定避難所
地震や津波等により、住家を失った被災者や帰宅困難者を収容し、中長期の避難生活の場を提供できる公共施設等をいう。

番号	名称	住所	標高
①	市民の森公園	石川3259-262	50m以上
②	県立石川青少年の家	石川3491-2	50m以上
③	東山ふれあい公園	石川東山2-11-1	約27m
④	伊波公園	石川伊波950-1	50m以上
⑤	伊波小学校	石川伊波287	50m以上
⑥	石川高等学校	石川伊波861	50m以上
⑦	あけぼの公園	石川曙2-2838	約21m
⑧	長佐久公園	石川曙2-2771	約33m



1階の軒下までつかる程度 2.0m▼

大人の腰までつかる程度 1.0m▼

大人の膝までつかる程度 0.5m▼

凡例

- 一時避難場所、広域避難場所
- 指定避難所
- ダム決壊時の洪水到達時間
- 津波到達ライン
- 土砂災害警戒区域
- 高速道路
- 国道
- 県道
- その他道路

ダム決壊時の最大浸水深 (m)

- 0.2m未満
- 0.2-0.5m
- 0.5-1.0m
- 1.0-2.0m
- 2.0m以上



この地図は、沖縄県数値地形図を使用したものである。(平29企情第520号)

出典：津波到達ライン…「うるま市 地域防災計画(H25)」 土砂災害警戒区域…国土政策局国土数値情報(H27)

うるま市 石川ダムハザードマップ

本ハザードマップは、**万が一大地震で石川ダムが決壊した場合を想定して、浸水する範囲を作成しました。**
 大雨に対する防災・減災対策は、気象予測の精度が高いことから余裕をもって対応できるのに対し、地震に対する防災・減災対策は、地震の事前予知が不可能なこと、またダムの決壊が地震直後に発生する危険があることから、前もって対策を検討する必要があると考えるからです。なお、石川ダムは60年に1回の地震に対して安全性が確認されております。

▶ 大地震、大雨は要注意!! 津波や土砂崩れにも注意!

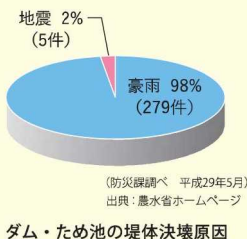
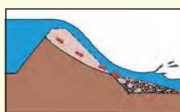
大地震の時
 地震によって堤体に亀裂が生じる場合や、液状化によって堤体の強度が低下し、水圧に耐えきれずダムが決壊する場合があります。



平成19～28年のダム・ため池の堤体決壊の原因は、98%が大雨、2%が地震によるものです。

▶ 津波や土砂崩れにも注意
 大地震の時は津波による浸水、大雨や大地震の時は土砂崩れも発生することがあるので注意が必要です。

大雨の時
 大雨が降ると、堤体に水が浸み込んで土が移動しやすい状況になることや、水が越流して堤体を浸食する事態が発生し、ダムが決壊する危険性が高まります。



ダム・ため池の堤体決壊原因

▶ ダム決壊は予測が困難なため早めの避難を心がけましょう

ダムの決壊は予測が難しいので、地震情報や気象情報に注意を払い、早めの避難を心がけましょう。

- ◆ テレビ・ラジオの地震速報や津波情報に注意しましょう
- ◆ 気象情報に注意しましょう —— 雨の降り方にも注意しましょう

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10mm以上～20mm未満	1時間雨量 20mm以上～30mm未満	1時間雨量 30mm以上～50mm未満	1時間雨量 50mm以上～80mm未満	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降る	どしゃぶり	バケツをひっくり返したように降る	滝のようゴゴーと降り続ける	息苦しくなるような圧迫感、恐怖を感じる

警報は重大な災害が起こるおそれがある場合、注意報は災害が起こるおそれがある場合に発表されます。これらの警報・注意報は、市町村ごとに発表されます。その他、豪雨や長雨によって土砂災害の危険性が高まった場合には、「土砂災害警戒情報」が発表されます。また、数十年に一度の大雨などが予想された場合には特別警報を発表します。

※市町村ごとの警報・注意報の発表状況は、気象庁ホームページで確認することができます。

▶ 日頃からの備え

1 非常時持ち出し品を準備しておきましょう

日頃から災害時に必要なものを話し合い、背負いリュックサックなどにまとめて準備しておきましょう。



2 避難場所・避難経路や危険箇所を確認しておきましょう

最寄りの避難場所や避難経路を、ハザードマップなどで日頃から確認しておきましょう。津波や土砂崩れの危険箇所も確認しておく必要があります。



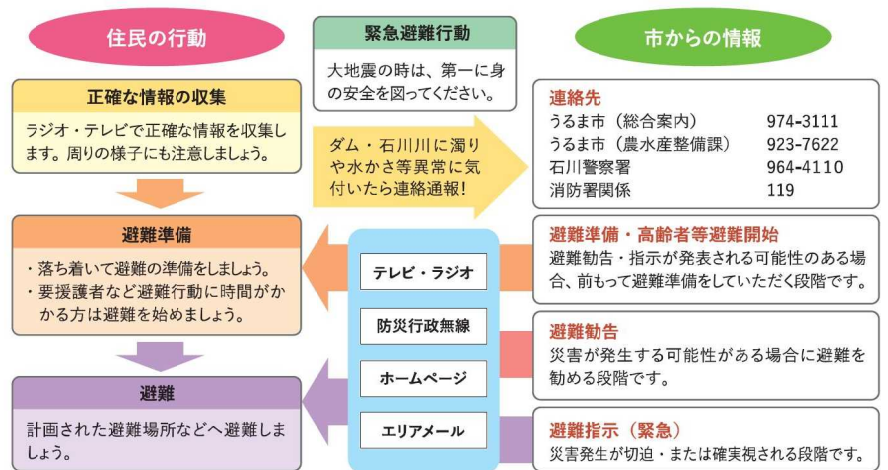
3 近所のお年寄りなど、災害時要援護者に気配りしましょう

地域のお年寄りや体の不自由な人に普段から気を配りましょう。



災害時に支援が必要な方は自治会等に教えて下さい。

▶ 必要な情報を確認し、迅速な避難行動を行いましょう



▶ 避難時の心得

- 1 避難勧告や避難指示が出されたら迅速に避難しましょう**
 災害の危険性が高まったら、避難勧告や避難指示が発表されます。隣近所への声掛けや市の避難誘導に協力しましょう。
- 2 避難時は安全な服装・履物で**
長靴は、水が入ると歩けません。紐で締められる運動靴を着用しましょう。傘は強風にあおられるので、カッパを着用しましょう。
- 3 浸水した中での歩行は危険を伴います**
泥水で何も見えません。避難するとき浸水箇所を通る場合は、長い棒、杖を使って、マンホールや障害物に注意しながら歩きましょう。水深がひざ丈 (50cm) 以上の場合は歩行が困難になるので、避難行動を避けるようにしましょう。
- 4 原則として車での避難は止めましょう**
 特別な事情が無い限り、**車での避難は避けましょう。**車での避難は渋滞や事故の発生恐れがあります。車ごと浸水した場合、ドアが開かなくなり、車の中に閉じ込められる危険性があります。
- 5 浸水が始まっている場合は、むやみに避難しない判断も必要です**
 道路が浸水している場合の避難は危険を伴います。**すでに浸水している場合は、避難場所へ避難せず、自宅の2階以上に上がり、水が引くのを待ちましょう。**
- 6 高いところで救助を待ちましょう**
 避難途中に水かさが増すなどして行きづまった時は、**近くの2階以上の建物**などを探し、なるべく高いところに避難し、水が引くのを待ちましょう。